

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-26

法政大学国文学会ニュース

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

日本文学誌要

(巻 / Volume)

17

(開始ページ / Start Page)

63

(終了ページ / End Page)

63

(発行年 / Year)

1967-03-23

法政
大学
国文学会ニュース

▼本年度の卒業式は三月二十三日で、日本文学科は一部一三五名、二部六〇名の卒業者を送り出す。昼夜合わせて約九〇名の留年者があり、日文科の点のからさは依然として続いている模様である。そうした難関を無事通過した新卒業生が、いつまでも法政大学国文学会々員として日本文学誌要を愛読されることを希望してやまない。なお大学院修士課程卒業者は六名である。

▼この春も、日本文学科の教授・講師陣に變動が多い。左にお知らせしておく。

▼まず、主任の近藤忠義先生が定年で専任教授の地位を退かれることになった。先生は昭和八年に法政大学へ講師として御着任、翌年に教授となられて以来、三十余年にわたって日本文学科の大黒柱であられた。その御功績については改めて言うまでもあるまい。先生の御退任は日文科にとって文字通り画期的な事であり、今後は、小田切秀雄教授を中心に近藤先生の築かれた伝統を一そう発展させる努力が重ねられるはずである。なお近藤先生は和光大学教授に移られるが、ひき続き講師

として法政日文科に御出講いただくことになっている。

▼昭和三十三年以来手薄な国語学を担当してくださった岡本千太郎教授も、定年で専任を辞される。他大学へ移られることが内定しておられる御様子であり、先生の今後の御健勝と御発展をお祈りしたい。

▼近藤先生の後任として広末保教授が移られることになっている。従来も専任同様に協力していただいていたが、これまで広末先生は第一教養部に本籍があり、文学部は兼任であった。それを文学部教授として移籍していただくわけである。大学院の近世関係の講座も担当される予定であり、国文学会の方で御活躍願うことは言うまでもあるまい。

▼益田勝実教授は教授に、杉本圭三郎講師は助教授に、それぞれ昇任が内定している。

▼国語学担当の後任は、専任者を得られなかったので、42年度は外間守善・山田巖両氏に講師として御協力いただくことになった。

▼毎年交代で若手研究者に担当してもらっている二部の講座に、昨年の島本昌一氏に替って山本吉左右氏が出講の予定である。また広末先生の後任として第一教養部専任講師に内定している片桐登氏も、日文科講師として二

年特研を担当の予定である。

▼西郷信綱講師は41年度は大学院のみを御担当であったが、42年は学部（一部）にも御出講願うことになった。また、児童文学に鳥越信氏、漢文古典演習に原田種成氏、大学院近世の講座に水野稔氏を、それぞれ講師としてお迎えする予定である。

▼42年度から、第一部一年次の専門科目履習が可能となり、日文科では日本文学概論をそれにあてることになった。また日本文学史Ⅱ（近代）を42年度から三、四年次の必修課目とすることになった（二部は43年度から）

▼最後に、永らく代行が続いていた法政大学総長に、経済学部教授渡辺佐平氏が任命されたことをお伝えしておきたい。（表章）

原稿募集

日本文学誌要は、法政大学国文学会の機関誌であり、本学における研究の成果を世に問うてゆく場です。会員諸氏の投稿を切に希望します。

内容 日本文学・国語学・国語教育に関するもの。但し、採否は編集委員会におまかせください。

枚数 三〇〜四〇枚程度。

締切 特にもうけません。

宛先 法政大学国文学会 編集委員会